国際歯科研究学会日本部会会報●Japanese Association for Dental Research

1996 - 1
January

# Newsletter for JADR

## Ⅰ．JADR会長 年頭の挨拶

山田　正

JADR会員の皆様。新年あけましておめでとうございます。1995年の皆様のご支援をありがとうございました。ことに，初めてIADR総会をcohostしたシンガポール大会に，部会単位としては最大の演題を出していただき，また，非常に多くの参加者があったことはJADRとして大変面目をほどこしたことでした。このために，1995年末に日本でのJADR総会がなかったことで，淋しい思いをされた会員もおられたと思いますが，今年は，福島県の裏磐梯の景勝の地で，「研究と友情の交流」をスローガンとし，会員同士の交流に重点をおいた総会を開催いたします。詳細は，別項に記載しますが，多くの方々の参加をお待ちしております。

さて，1995年の理事会は，熱心な議論が展開され，いつも時間を超過しての白熱の議論が戦わされました。その中心的な話題は，JADRを魅力ある学会とすること，作田前会長のIADR Vice Presidentへの立候補，それに2001年のIADR東京大会のことなどです。

JADRを魅力的な学会とするためには，会員各位の声がその運営に反映されることがなによりも重要と考えます。新たにお願いしました各大学の連絡委員を評議員のような形に発展できないか，また，学会のスタイルも国際学会らしくし，かつ，韓国，東南アジア，オーストラリア・ニュージーランド部会などと合同の総会がもてないか，会長選挙などをより開かれたものにできないかなどなど種々な考えを検討し，これらのことを含めてJADRの規約の本格的な改訂を岡田事務局長，作田前会長らを中心として検討しております。また，JADRを国際舞台での活躍の踏み台とできるよう，多くのJADR会員をIADR本部の各種委員会の委員に推薦いたしました。伝統あるハットン賞への候補もJADRより4名の候補推薦が可能となりました。多くの方々がチャレンジされ，国際舞台登場への足がかりとされるようお願い申し上げます。今後，連絡委員などを通じて会員の皆様のご意見をお伺いすることもあろうかと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

2001年に東京地区でのIADR総会は，JADRにとっては重要な問題で，黒田副会長を中心として本格的な準備段階に入ってきました。円高のおり，費用の面でたいへんなことも多いと思いますが，会員の皆様のご協力がなによりも重要です。

3月には，日本に比較的近いサンフランシスコでIADR総会が開催されます。シンガポール同様，多くの会員が参加され，国際舞台で活躍されますよう，また，会員の皆様にとって1996年は実り多き年となりますよう祈念いたします。

## Ⅱ．IADR会長（Richard Ranney博士）挨拶

（IADReport 4号およびSingapore総会での開会式挨拶より抜粋）

1920年にNew YorkでIADRが創設され，75周年の記念すべき1995年に，IADR総会がSingaporeで成功裡に開催された。この大会はSoutheast，Japan，Australia / New Zealandの各部会が共催し，国際的，科学的視点からも大成功を収めた。IADRのコンセプトである“to advance research and increase knowledge for the improvement of oral health worldwide”がその基調となっている所以である（さらに彼はIADRの国際性からアジアにおける本総会の意義を強調した）。

1920年12月10日，New York CityでDr. Wilson J. Gies（彼の名を冠した賞があり，J. Dent. Resに掲載された最優秀論文の著者に毎年授与されている）の提唱によりIADRが設立された［当時は，G. V. BlackやW. D. Millerの泰斗の活躍，歯科医学の基盤の萌芽，科学研究への憧憬など環境条件がIADRの設立の気運を生んだ。しかし，この二人の泰斗はIADRの設立を見ることなくこの世を去ったのは残念なことである。初代IADR会長はdental plaqueという言葉を最初に世に提唱したJ. Leon Williamsである。ちなみに初回の参

加者は招待者21名と記されている]。以来75年の発展の歴史を述べ，IADRは現在16 Divisionsを有するまでに発展し，今後Chinaなど，また更に7つのnon-Divisional Sectionsの受け入れの可能性も示唆した。Research Groupも19となり，総会での研究発表が多様な領域に亘って，しかも各々の領域での演題数もウナギ上りで（ちなみに来るSan Franciscoでの74回総会には総数3,615題の応募がある－IADReport 17巻4号），当然会員数も著しく伸び，とりわけ最近5年間のアジアでの激増ぶりを強調した。

この様に著しい発展をみたIADRは，本部を1995年4月より新しい建物に移転し（1619 Duke Street, Alexandria, Virginia 22314-3406, USA Tel. 703-548-0066, Fax. 703-548-1883），現在14人の本部専任事務局員（事務局長：Dr. John J. Clarkson，任期～2000年）で会員サービスの向上に努め，IADRの益々の発展に尽くしたいと決意を述べた。

その他，IADRの出版物について言及し，3つの学術刊行物（J. Dent. Res., Advances in Dental Researchそして1995年より新たに発刊されたCritical Reviews in Oral Biology & Medicine（後述）やNewsletterや総会等のプログラム等が学術の発展と会員の交流に寄与している。さらに色々な学術賞（IADRにおける賞は後述する）を設け，学術の全世界的な奨励を，また発展途上国には科学missionの派遣を行い（例えば，Visiting lecture program in IndonesiaとScience transfer program in China - いずれもIADReport 17巻3号）学術の全世界的な普及に努めている。

会長は最後に研究と教育の融合の重要性を強調し，今後IADR総会においても積極的に両者の接点を模索し，IADRの20番目のResearch GroupとしてEducational Research Group（IADReport 17巻4号の巻頭言に詳しく述べられている）の設立を提言している（岡田　宏）。

## Ⅲ．作田　守先生，IADRのVice-President選挙，当選おめでとうございます

JADR会長　山田　正

新年早々，作田　守前会長のVice-President選挙当選のニュースが入りました。予想はしていたものの，これまで多くの名のある方々が試みて成し得なかった日本人初の快挙に，「やった！」との気持ちは隠しようがありません。IADRの中で，日本人研究者が大いに認められてきたとの念願の叶った喜びです。会員の皆様も同じ気持ちかと思います。

しかし，私にとっては，作田先生に，「おめでとうございます」との気持ちと同時に，「大変なことを押し付けてしまって申し訳ありません」との気持ちが半々です。渋る先生に，この大役を押し付けてしまった責任をひしひしと感じております。サンフランシスコの大会でVice-Presidentに，次の年はPresident-elect，さらに1998年には，日本人初のIADRのPresidentになられます。健康に留意され，この大役を果たしていただきたいと思います。

作田先生の当選には，研究者としての評価，ことにそのお人柄によることは当然ですが，また，多くのJADR会員の支持によるところも大きいと思います。しかし，先生，これからは決して「JADRのために」などとおっしゃらないでください。先生が当選されたことで，十分JADR会員のためになっております。これからは，「IADRのために」働いてください。そのため，JADRの会長と意見が対立する場面がしばしばあることを十分覚悟しております。先生は，もはやJADRから飛躍し，IADRの首脳になられるわけです。先生に投票したのはJADRの会員だけではなく，広くIADR会員の投票の結果であることを留意されていただきたいと思います。

前会長である先生に頼ってきた私としては，淋しい気もしますが，これからはIADR会員全体のために，広い視点をもたれて活躍してください。それが，長い目でみてJADR会員のためになると信じております。我々JADR会員もそのような先生を大いに支援して行くと思います。

作田先生，当選おめでとうございます！

## Ⅳ．IADR／AADR本部ビル公式オープニング記念行事に出席して

作田　守（JADR前会長）

JADRの会員の皆様，1996年は皆様にとってよい年でありますようにお祈り申し上げます。

標記の記念行事の前日の1月6日（土）にはIADR理事会がWashington, D.C.近郊で本部ビル近くのAlexandria, VAのホテルで終日開かれておりました。その夜の夕食会に私も招かれておりましたので出席しました。この会には，IADR, AADRの会長はもとより理事，元会長，元事務局長ら40名位が出席しておられました。日本からは，私と同じ飛行機で到着されたIADRのdental material groupのPresidentである京都大学の谷　嘉明教授も出席されました。宴も終わりに近づいた頃，IADRのRichard Ranny会長から，その日の理事会において今回のVice-Presidentの選挙の結果，不肖私がVice-President-electとして選出された旨の発表がありました。JADRの皆様には，この選挙にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。外国のIADR部会の皆様のご支援もあって，この結果になったものと思います。日本人としてはじめてのことであり，私にとって身に余る光栄ですので，大変大きな仕事ですが，これから4年間，IADRの副会長，次期会長，会長，前会長とその責を果たすべく，大いに努力を重ねるつもりでお

ります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

夕食会の途中から大雪が降り出しました。ホテルの部屋に帰りますと東京医科歯科大学の黒田敬之教授から電話が入っておりました。黒田教授はJADRを代表して夕食会や標記行事に参加されることになっておりましたが，雪のためChicagoで足止めとなり，Washington, D.C.の空港に来ることができないとのことで，止むを得ずChicagoから引き返されました。誠に残念なことでした。

翌日の1月7日（日）には本部ビル公式オープニングの行事がIADR 75周年を記念して行われました。事務局長のDr. Clarksonに黒田教授はChicagoまで来られたが，雪のためWashington, D.C.に来ることが出来ず，この日の記念行事に参加することが出来ない旨伝えておきましたので，冒頭のWelcome and Announcementsの所で，その事情がDr. Clarksonから説明され出席者の同情の声が聞かれました。したがって，この記念行事に日本からは，谷教授と私が出席しました。

この記念行事では，プログラム（次頁に追記）にもありますように，IADR／AADRの会長・副会長また，NIDRのSlavkin Directorなどからそれぞれ大変有意義な講演やディスカッションがありました。本部ビルは，講演が行われたホテルから車で5分程度の所ですが，大雪のため車の運行に手間取りました。本部ビルは，地上3階地下1階で，本部職員がそれぞれ1つのオフィスを持っており，大変機能的に仕事が出来るように整備されておりました。毎年行われる国際学会の事務局として，また，評価が高くなっているJ. Dent. Res.発行の効率をよくするdesk top publishingなど，誠にふさわしい機能を有している本部であると感じました。2時半頃ホテルに帰りましたが，帰国の飛行機は2日間ありませんでした。

同日3時半から6時過ぎまでIADR／AADR合同理事会がRanny会長の議長で行われました。私はまだこの会議の正式メンバーではありませんが特別にこの会議に参加させてもらいました。その翌日の8日（月）も朝8時から夕方6時過ぎまで同じ会議の続きが行われました。会議の資料の厚さも5㎝位あります。IADRのcouncil meetingでは通常終日の会議が開催され，これには何回も参加してきましたが，日本での学会運営のための理事会で，このように長時間かけて承認を求めていくものを私は経験しませんでしたので，今回は大雪が私によい勉強する機会を与えてくれたことになります。

この会議の話題を少し拾って見ますと，abstractのrejection rateが10％位にもなるとの指摘が気になりました。abstractの形式に合ったものを提出しなければならないことは基本的必要条件ですが，このabstractをJ. Dent. Res.の一部として発行すると，abstractはpeer reviewを受けていないので雑誌の評価が下るおそれがある。さらに，abstractが引用文献の対象とならないように単に抄録集かproceedingsとして出版するのがよいという意見が出されていました。歯学研究のレベルが，他の分野の研究にひけを取らないようにするため，活発な意見が飛び交っていたのが印象的でした。

また，各国の部会の会員とIADRの会員との関係について，IADR会員となるには各国部会の会員になっておく必要があることが明確にされていました。例えば，米国に留学中の日本人がAADRを通じてIADRに入会し日本に帰国した場合，AADRを退会してJADRに入会し，IADRの会員資格を継続するというものです。

以上，本部ビル公式オープニング記念行事を中心に，今回のVice Presidentの選挙結果およびIADR／AADR理事会の様子を報告させていただきました。

IADR/AADR本部ビルでシャンペンを開けている所
左から Dr. Horold Löe（IADR元会長） Prof. Graham Embery（British Division会長） Dr. Richard Ranny（IADR会長） Dr. Marjorie Jeffcoat（AADR会長）
作田 守教授 撮影

## V. IADR部会長会議および評議会の要約

山田 正（東北大・歯・生化）

1995年6月26日各部会の会長とIADR会長（Dr. Sessle），事務局長（Dr. Clarkson）などIADR本部理事が出席し部会長会議が開催されました。

また，6月27日には本部理事，各部会評議員などが出席し，評議会が行われました。

これら二つの会議では，重複している部分がほとんどですので，まとめてその概要をお伝えします。

1. John Clarkson博士が事務局長に再選された。
2. Task Forces Committeeからの提案

北米外での総会の回数を増加すべきとの意見があるが，北米での総会は収入が多いので，IADRの健全財政のためには，北米外で総会を多く開催するのは問題があることが，事務局長より説明された。しかし，北米外部会で総会を誘致する希望が多く，理事会としては北米外での総会の回数を増やすことを積極的に検討する用意のあることが示された。また，日本部会などから，開催の時期について3月の初旬から中旬に開催されることは，入試業務などと重なり総会参加にきわめて不都合であること，また，北米でも北の地域では気候的

## *75th Anniversary of the* IADR

Official Opening of the IADR / AADR Headquarters Building

**Program**

**January 7, 1996**

| | |
|---|---|
| 9:30 am | Registration |
| 10:00 am | Welcome and Announcements<br>*John Clarkson, Executive Director*<br>Introduction of the IADR President<br>*Barry Sessle,*<br>*IADR Immediate Past President* |
| 10:05 am | "75 Years of the IADR"<br>*Richard Ranny, IADR President* |
| 10:20 am | Introduction of the AADR President,<br>*John Rugh,*<br>*AADR Immediate Past President* |
| 10:25 am | "Dental Research Comes of Age"<br>*Marjorie Jeffcoat, AADR President* |
| 10:40 am | Introduction of the Keynote Speakers<br>*Barbara Boyan,*<br>*AADR President-elect* |
| 10:45 am | Keynote Address :<br>"Impact of Dental Research on Practice, Education, Industry, and Public Health Worldwide"<br>*Per-Olof Glantz*<br>*IADR Vice-President* |
| 11:15 am | Introduction of the Chairman, Building Fund Committee<br>*John Keller, AADR Vice-President* |
| 11:20 am | "Investing in Bricks and Mortar-An Appreciation of Sponsors"<br>*Jack Hein, Chairman* |
| 11:35 am | The Next 75 Years-Open Discussion |
| 0:05 pm | Luncheon-Presiding:<br>John Greenspan, IADR President-elect<br>"The Future is Now"<br>*Harold Slavkin, Director, NIDR* |
| 1:15 pm | Buses Depart from the Old Towne Holiday Inn Hotel for the IADR Headquarters Building |
| 1:30 pm | IADR Headquarters Ribbon-cutting Ceremony |
| 1:45 pm | Tour of Building<br>*(coffee and dessert provided)* |
| 2:30 pm | Adjourn |

な問題もあることで，開催時期の変更については，今後とも検討していくことにした。

3. 評議会の代表委員について

各研究グループの代表を評議員に加えるべきだとの意見があるが，評議員が多くなりすぎることと，このことにより各部会（地域）からの代表による審議を主体とする現在の評議会そのものの性格に影響を与える点もあり，さらに検討を続けることとした。

また，部会会員の人数を考慮して評議員の数を決めるべきだとの提案が米国部会（AADR）からあった。この案によると，日本部会も現在の3名から4名に増加することになるが，米国部会の人数が一挙に増加するため，国際会議としての本会の性格を損なう危険もあり，多くの北米外の部会の代表は，この改訂に批判的であった。

4. フェローシップに関する委員会からの提案

年次総会の収益の10％程度を，研究の面で進んでいない地域の研究を促進するために使うようにしたいとの提案がなされた。これには，これらの地域からのIADR総会への出席を補助するための資金，教育的講演会などを行うことなどが考えられている。

5. 本部会費および参加費の値上げが了承された。

6. ハットン賞の選考対象者の制限について

米国部会から，現在36歳以下という制限を撤廃し，研究経験の少ないことを基本に据えた制限に変更すべきだとの提案がされた。米国部会では，候補を選ぶ段階ですでに年齢制限を撤廃しているため，総会での制限と合わないとのことである。しかし，各国の事情がそれぞれ違うことなどが意見として出され，この改正案は評議会では認められなかった。（その後，本部よりこのことに関し各部会の意見を求めてきたが，日本部会では，現状維持の方針を伝えた）

7. Basil Bibby博士を名誉会員に推薦した。

8. 本部副会長の候補者の要件について変更が行われ，IADRの活動に寄与した点を考慮することとした。

9. ニューズレターに"News from Division"の項を設けることとした。

10. 会員の増加対策について

会員勧誘のための手紙が各歯科大学に送られることとなった。また，交換レートのため，年会費がその国の事情を考えると，異常に高くなっている国があり，これらの地域の会員へ会費の援助をすることなどが考えられている。後者については，会員を増加させ，広い地域から会員を募るためには，その地域の企業からの会費援助などの手段を講じるべきだとの提案が出され，これらの案は基本的には了承された。

しかし，これらの部会では金銭的な問題の他に，部会内での会員相互のコミュニケーションが困難であることに，より大きな問題があることが指摘された。

## Ⅵ. IADR学会賞について

ここに学会賞の総てが網羅されているわけではない（この他にJADR会員にお知らせした方が良いと思われる賞がございましたら，事務局までお知らせ下さい）。

Edward Hatton Award（Hatton賞候補者の選考についての項参照）

Young Investigator Award：to stimulate basic research in all dental research disciplinesの賞で36才未満の方

Distinguished Scientist Award：次のような研究領域別の賞となっている

- Biological Mineralization Award
- Craniofacial Biology Award
- Research in Dental Caries Award
- Pulp Biology Research Award
- Research in Oral Biology Award
- Basic Research in Periodontal Disease Award
- Research in Prosthodontics and Implants Award
- Salivary Research Award
- Experimental Pathology Research Award
- Pharmacology, Therapeutics & Toxicology Research Award
- H. Trendley Dean Memorial Award（これはepidemiology and public healthの領域で著明な業績を上げた方）
- Wilmer Souder Award（dental materials researchの最高の賞となっている）
- PTT Research Award(basic and clinical pharmacologyの領域で秀れた研究成果を上げ歯科医学に貢献した方）

以上は各々選考委員会を持ち，公募される（詳しくはIADReport 17巻2号を参照）

その他

- E. W. Borrow Memorial Award(oral health prevention for childrenに貢献のあった方）
- J. Dent. Res. Gaies Award（これはJ. Dent. Res.に掲載されたその年度の最高の論文の著者に与えられる賞）
- IADR research in prevention awardやToshio Nakao (GC in Japan) fellowship awardなどpost-doctoral studentsやyoung investigatorsに向けられたfellowship awardsがある（IADReport 17巻，2号と3号参照)。

最近，逝去されたJorgen Pindborg博士を顕彰するPindborg Prizeもある。

## Ⅶ. 1995年 IADR Research Groupの活動報告

以下，Singaporeにおける73回IADR総会を中心に報告していただきます。今後研究活動やその他の学会活動報告を会員の皆様より募集したいと考えておりますので，奮って情報を提供下さい。来るSan Franciscoでも各Research Groupのbusiness meetingがありますので，色々な情報が得られるものと思いますのでどうか御報告下さい。頂戴したレポートは次回のNewsletter紙上を飾らせていただきます。特にSFでは興味あるGroup-sponsored symposiaがございますので，シンポジウムの細部にわたるレポートを歓迎いたします。レポート可能な先生方は必ず事務局長の岡田迄2月中にFax（06-875-4359）にてレポートするテーマを含めて御一報下さい。次号にはもりだくさんのSF総会の報告が掲載できるよう執筆依頼者をお願いしておきたいと考えているからです。

### 1. Cariology Groupのビジネス・ミーティングの概要報告

山田　正（東北大・医・生化）

日　時：6月30日（金）午後5時～6時

場　所：Bailey Room, Level 4, Raffles City Convention Center

出席者：約20名

1. 次期会長の選挙が行われ，2名の候補者があったがEastman Dental CenterのDominick Zero博士が選出された。
2. AADR（サンアントニオ）総会での演題の採択率はCariology Groupでは，83%であったことが報告された。
3. IADRシンガポール大会では，99題中94題が採択されたとの報告があった。
4. IADRシンガポール大会で，クロルヘキシジンのシンポジウムとNutrition Groupとの共同のシンポジウムが時間的に重なり，聴衆が分散したことは不適切であり，今後このようなことがないように努力して行くこととした。
5. このグループのメンバーが1994年には174名から233名に増加したことが事務局長より報告された。
6. 会計幹事より，1994年は4930ドル繰り越されたことが報告された。
7. 本グループの賞を新設することについて，小委員会よりの提案が報告された。36歳以下とする年齢制限などについて討議されたが，挙手により原案通り承認された。賞の名前は「Basil G. Bibby Young Investigator Award」とし，プラークと500米ドルが与えられる。1997年総会より，賞が与えられる。

8. 次期以降の総会のシンポジウムの演題が募集された。さらに，募集を続ける。
9. Student Research Fellowshipに800米ドル寄贈することが承認された。

2. Craniofacial Biology Groupに関する報告

黒田　敬之（医歯大・歯・矯正）

本年度のCraniofacial Group Research Awardの受賞者は，UCLAのBernard G. Sarnat教授であった。永年にわたるanomalyの実験的研究にたいする評価によるものと推察される。

研究発表は，Oral 37演題　ポスター40演題で，日本からの発表はOral 5演題，ポスター20演題をかぞえた。内容としては，組織形成，器官形成へのGrowth Factorの影響，歯の移動をテーマとする実験的研究，歯根膜の分子生物学的研究，歯の形成，萌出のメカニズム，形態学のmethodology，TMJDなどを含む生理学的研究が主たる所であった。他のgroupとoverlapした研究がますます増えてきている。

シンポジウムは，今年は組まれなかったが，Lunch & Learningとして，東医歯大の大隅ー山下先生によるWhole embryo cultureによる哺乳類の発育についての講演が持たれた。

来年度は，Transaction mechanismとcranio synostosis（gene expression）についての2つのシンポジウムが組まれる予定である。

Group Receptionは，Neuroscience/TNJ groupと合同の楽しい会であった。

3. DMG（Dental Materials Group）に関する報告

岡崎　正之（阪大・歯・理工）

第73回IADR総会において，DMGからも数多くの発表がなされ，各会場は終始ほぼ満員の盛況であった。総演題数1535題の中，Dental Materialsセッションとして登録された演題数は284題であるが，歯科材料に直接関係のある演題だけでも実に930題（60%）に上り，抄録上では以下に示すような多彩な研究テーマに分類される（カッコ内の数字は演題数）。

Dental Materials (284), Adhesion (106), Amalgams (17), Biocompatibility (18), Bioengineering (12), Biomaterials (69), Biomechanics (18), Cements (51), Ceramics (54), Dentin bonding agents (81), Glass ionomers (71), Impression materials (15), Mercury (9), Metals(30), Polymer (66), Porcelain systems (29)

さらに補綴，保存をはじめとする臨床系での材料関連の発表を含めると，相当数の演題に上ると推察される。

とりわけ接着関係が多くを占め，象牙質接着のハイブリッド層接着機構や接着強度に関してJADR会員の発表は常に注目を集め，口頭発表，ポスター会場とも，活発な質疑応答が行われていた。全般的にはコンポジットレジンに関する発表が相変わらず盛況で，長期摩耗，疲労，破壊靭性，重合率，吸水性といった臨床上極めて重要な材料物性に関する発表が多かった。また，審美性の観点から見たメタルボンドの接合強度や，歯科用合金のフッ素共存下での電気的腐食，セメントの辺縁封鎖性や歯髄刺激に関する発表も歯科材料の生体親和性の概念から注目を集めていた。さらに，トピックスとしてのVirtual reality system，FEM応力解析等コンピュータの応用，また歯科理工学教育の現状と将来的展望に関する各国の報告にも関心が寄せられた。このように，独創的な基礎研究から臨床との接点に立った応用研究まで多岐に渡り興味の尽きないテーマが披露され，うだるような外の暑さを忘れて，涼しい快適な学会場の中で活発な発表と討論が続けられた。

6月29日の夕刻開催されたビジネスミーティングでは，DMG新会長として谷　嘉明教授が就任された。

4. Implantology Research Groupに関する報告

赤川　安正（広大・歯・補綴）

総会演題数の中で，インプラント関連の演題は73（約5%）であった。以下，基礎，臨床，シンポジウムについて報告してみたい。

まず，*in vivo*における動物実験（形態計測）では，臨床パラメーター（X線写真による計測値，ペリオテスト値）の信頼性を実際の組織標本と比較評価した研究，即時及び遅延埋入インプラント周囲組織の形態計測，吸収性ポリ乳酸膜と骨移植材料を組み合わせたGBR，骨内インプラント内部にゲル状にしたBMPを注入したビーグル犬に埋入した研究などが注目された。インプラントに対する組織反応を見た研究では，陽極酸化チタン，即時負荷したプラズマスプレーチタンインプラント，パルス電磁場刺激，インプラント周囲骨の三次元構築などに関したものがあった。

さらに，*in vitro*における組織反応に関しては，骨芽細胞の石灰化にCaとPが与える影響，チタンの表面処理，歯肉および歯周靭帯細胞由来の線維芽細胞におけるインテグリンの発現，急速熱処理によるHAコーティングの溶解性，骨形成時の熱分布解析についてのユニークな発表が相次いだ。

臨床に関する演題は，腸骨移植による上顎のリハビリテーション，ITIインプラント60本の予後成績（上部構造はペンシルバニア大学歯学部学生が作製），アパタイトコーティングを施したIMZインプラント，インプラント周囲炎と骨吸収，ブラキシズムの影響，インプラントと歯牙周囲の臨床パラメーターとの相関，前頭骨へのインプラントの応用などであった。さらに，ゴム硬さ弁別と咬合力，咀嚼運動速度，動揺度，ワンピースキャストインプラントフレームワークの適合性に関するものなど多岐にわたっていたが，インプラントの機能評価については日本からの発表がほとんどであった。

シンポジウムは，インプラントに関する画像処理と題して3名のシンポジストが発表した。Reddyは，デンタル，パノラマ，断層撮影それぞれの特徴と適応を述べた。Riegerは画像処理の方法を分かりやすく説明し，レントゲンデータ

から三次元構築を行い，各種インプラントへの臨床応用を提示した。Brägger は規格化されたｘ線写真をもとに画像処理して得られたサブトラクション像からインプラント周囲組織の評価を行い，ITI インプラントの予後を報告した。

総じて活発な発表の中でも，特にGBR や評価の臨床パラメーターをめぐって多くの質疑応答が行われた。また，すでにアメリカの一部の大学ではインプラント治療が学部学生の臨床実習にまで取り入れられている発表もあり，今後我が国でも学部教育におけるインプラントのあり方など，革新的な発想と展開が必要なことが感じられた。

**5. Microbiology/Immunologyのビジネス・ミーティングの概要報告**

山田　正（東北大・歯・生化）

日　時：6月29日（木）午後5時～6時

場　所：Orchard Room, Level 4, Raffles City convension Center

出席者：約15名

1. AADR（サンアントニオ）総会で本グループのビジネスミーティングが企画され20名ほど参加したが，本グループはあくまでもIADRのグループであるということで，正式の総会とはされなかったことが報告された。
2. 会計幹事より，1994年会計は約2000米ドルのプラスがあることが報告された。このうち，500米ドルをIADR Building Fund に寄贈することが提案され，承認された。
3. Student Reserch Fellowship に100米ドルを寄贈することが承認された。
4. グループの次期会長について討議され，地理的に公平に分布するようにとの提案がされ，多くの賛同を得た。その結果，そろそろ日本部会から出すべきとの意見が出され，山田に推薦を依頼された。この件については，立候補されたい方がありましたら，東北大学歯学部山田正或いはPaula Fives-Taylor博士（米国Vermont大学）まで連絡下さい。
5. 次期以降の総会のシンポジウムの演題およびチェアマンの選任の方法について討議された。

**6. Mineralised Tissue Group の研究動向について**

青葉　孝昭（日歯大・病理）

6月27日から7月1日までの学会期間中に，“歯のエナメル質”と題したシンポジウムと，4つの口頭発表セッション（演題総数41），4つのポスターセッション（演題総数46）がもたれました。シンポジウムのテーマは，形成過程にあるエナメル質は外界からの影響をその構造と組成に刻み込んでいることに着目し，全身疾患や環境汚染の診断や評価の指標に役立てようとの意図で企画されました。口頭発表の場では，歯胚（エナメル質，象牙質，セメント質）の分化と形態（組織）形成，細胞外基質成分の局在とその役割，骨と軟骨の形成に寄与する増殖因子とサイトカイン，リン酸カルシウムの組成と物性ならびに石灰化機構に関する研究が報告されました。歯胚の分化と形態形成に関する報告では，上皮と間葉系細胞の相互作用が多くの注目を集めており，解明の遅れているセメント質形成においても上皮の側からの関与が論議されています。歯や骨（軟骨）に含まれる細胞外基質に関しては，各々の硬組織に特異的に発現されている基質成分に焦点が向けられ，それらの基質タンパクの遺伝子レベルでの発現抑制や組織分化や代謝との関わりに興味が集まっています。BMPをはじめとする局所因子の作用機序の解明は，インプラントにともなう骨造成や骨疾患の治療への応用をめざして最も精力的に研究が進められています。また，それらの因子の効果を調べる目的に動物実験とともに培養実験系が用いられていますが，破骨細胞，骨芽細胞，軟骨細胞の培養系に加えて，エナメル芽細胞や象牙芽細胞の培養系の確立を目指した試みも報告されています。硬組織を構成する無機結晶の物理化学的な性状に関しては，生体の結晶組成を反映した炭酸化アパタイトの構造と溶解度などの物性に興味が集まっています。ポスターセッションでも同じ方向性をもった研究報告が見られましたが，画像処理や共焦点顕微鏡を応用した報告も多く，硬組織研究におけるcomputer の役割がさらに増大しています。

以上の学会内容を踏まえて筆者の個人的見解を述べさせていただくとすれば，硬組織をめぐる研究動向は種々の相互作用（細胞と細胞，細胞と基質成分，異なるあるいは同じ基質成分の間，基質成分と無機結晶）の解明に向けられていると考えています。歯や骨はかつて硬い固定された組織としてイメージされていた段階から，構成細胞と細胞外基質の軟らかい成分の理解がすすみ，現在では発生と代謝過程で非常にダイナミックな変化が起こっている組織としてのイメージに変わってきています。今後は，生体内での硬い組織と軟らかい組織の界面での現象がより精密に解明されていくと考えられます。

**7. Dentin/Pulp Complex Group に関して，**
**The International Conference on Dentin/Pulp Complex 1995 国際会議開かれる**

須田　英明（医歯大・歯・歯科保存）

国際歯科研究学会日本部会（JADR）が，国際歯科研究学会（IADR），日本歯科医学会，および歯科基礎医学会とともに後援した“The International Conference on Dentin/Pulp Complex 1995；象牙質／歯髄複合体に関する国際会議1995”が，去る7月3・4日の両日，千葉の幕張プリンスホテルで開かれました。この会議は，シンガポールで開催された第73回IADR大会のサテライトシンポジウムとして開かれました。大会長は神奈川歯科大学の高橋和人教授，事務局長（学術プログラム委員長）は東京歯科大学の下野正基教授が，それぞれ務められました。参加者数は国内外あわせて400名を超え，大会前日と前々日（7月1・2日）に併催された“The International Meeting on Clinical Topics of

Dentin/Pulp Complex”とともに熱気溢れる大会となりました。とくに海外からの参加者は，日本における歯髄生物学（Tooth Pulp Biology）分野の研究が質量とも高いレベルにあることに改めて感嘆の声を上げていました。なお，大会前日の7月2日夕方には，ウエルカムパーティーが同ホテル内で開催されましたが，JADR会長メッセージが参加者を前に代読されました。大会終了後，高橋教授と下野教授は全員から会議の成功を祝福され，握手攻めにあっていました。

なお，本国際会議の概要については近くProceedingsが出版される予定になっています。詳細は事務局長（学術プログラム委員長）の下野教授までお問い合わせ下さい（東歯大・病理 FAX：043-270-3784）。

8. Periodontal Research Groupに関する報告

村上　伸也（阪大・歯・口腔治療）

1995年6月28日から7月1日までの期間，シンガポールにて開催された第75回IADRにおいて，歯周病関連の研究に関しても170題（うち81題が口頭発表）の演題数が集った。今回のIADRでも，歯周病の病態解析，診断法，GTRを含む治療法に関するテーマでセッションが組まれ，積極的に最新の情報が意見交換された。

またこれとは別に，IADR Periodontal Research Groupの主催で第10回International Conference on Periodontal Research（ICPR）が1995年9月13日から17日の期間，アメリカ合衆国ニューヨーク州西部のPeek'n Peak Resortにて開催された。歯周病の遺伝学，歯周病病巣での免疫機構，歯周病関連細菌のタンパク分解酵素，歯周組織の破壊と再生の分子機構のテーマを中心に発表がなされ，活発に質疑応答が交わされた。都会の雑踏から隔離されたアメリカの郊外でinformalでリラックスした雰囲気の中，会議が進行された。歯周病研究に関わる世界のあらゆる分野の研究者が一堂に会した会議であったが，今回の会議ではScripps Research InstituteやHoward Houges Medical Instituteからも研究者が招待され歯周病の病態解明において欠くことのできないサイトカインやLPSに関する最新の基礎的研究成果が報告された。歯周病研究の分野においては歯科の研究者に限定されないborderlessな交流が既に始まっていることがあらためて認識された会議となった。また，セッションの合間に会議参加者はゴルフ，テニスなどのリクレーションを楽しむ機会もあり，終日和やかなムードの中，参加者同士の交流がなされた。日本からは清野　宏教授（阪大・微生物病研究所）と私が招待され，歯周病巣での免疫機構に関するセッションでの演者として最新の研究成果を発表した。また，大阪で行われた第9回ICPRより設けられたyoung investigator awardの選出，表彰が会期中に行われた。今回は57題のうちから5名の審査委員によって平野裕之博士（阪大・歯・口腔治療）が1位に選ばれ，2位にShapira博士（イスラエル），3位にLoomer博士（カナダ）が選出された。日本からの他の応募者の研究内容も評価が高く，日本の歯周病研究における貢献度の高さが再認識された。1997年に歯周病に関するGordon Conferenceが開催されるので，1998年に次回第11回ICPRをスウェーデンにて開催することに決定した。

## Ⅷ. IADR Building Fundについて

作田　　守（JADRのBuilding Fund担当）

1995年4月に発行されましたJADRのNewsletterに募金の主旨や背景が記されておりますので，その後の募金状況について報告させていただきます。

1995年3月末迄にJADR事務局に寄せられましたご寄附は，当時の為替レートで約14,000ドルになり，シンガポールで開かれたIADRの評議会の席上，時のIADR会長のSessle教授（現在前会長）に手渡しました。ご寄附いただいた会員各位のお名前はIADReportsの1995年9月号（Vol.17, No.4）に掲載され会員各位のご好意が表彰されておりますのでご覧下さい。

その後にご寄附いただいたものについては，サンフランシスコの学会の時にRanny IADR会長に渡す予定にしております。今からでもご浄財を寄附しようというご意志の会員は次にお振り込みいただきたく存じます。

口　　座：三和銀行千里中央支店　普通預金口座
口座番号：5007307
口 座 名：IADR本部基金　伊集院直邦

募金目標は75万ドルですが，1995年12月8日現在で，約45万ドルが集まっております。これは，各国部会および企業からの醵金の合計金額で，今後の納入申込を含めた金額です。日本部会からの寄附については，1月7日（日）に開催された本部ビル公式オープニング記念行事におけるDr. Jack Heinの講演の中で日本部会の協力を高く評価し，出席者全員に紹介してくれておりました。

IADR／AADR本部の1階には，このように醵金いただいた各国部会，研究グループの名前が金色の金属プレートに彫り込まれてあります。もちろんJapanese Divisionという名前もここに印されています。今後，本部ビルを訪れるチャンスをお持ちの会員は，もちろん本部職員に事前に訪問の了承を得ておく必要がありますが，ご覧いただければと思います。

ご寄附いただいた会員各位に厚く御礼申し上げます。

## Ⅸ. 2001年IADR総会準備状況

黒田　敬之（JADR副会長）

JADR Newsletter 1995-1 April号で，お知らせ致しました2001年IADR総会東京開催が，1995年のSingapore大会のcouncil meetingで正式に満場一致で再確認されました。

思い起こしますと，1986年第64回IADR総会がハーグで開催された時に当時の三浦不二夫会長が東京誘致の発想をもたれて以来，歴代会長のご努力の結果，1992年佐々木　哲会長がグラスゴー大会でIADRのcouncil meetingの承認を受けて来られ，作田　守会長の時に日本歯科医師会，日本歯科医学会，文部省および厚生省への協力依頼をはじめ基本となる企画の模索が，JADRの理事会のなかですすめられてきました。

1995年度からの山田　正会長のもとで，正式に2001年IADR総会準備委員会が組織されることになりました。現在の準備委員は，JADR理事会のメンバーのなかから役職指定として，山田会長，黒田副会長，岡田事務局長，作田前会長が参加し，奥田理事，斉藤理事，須田理事に加え，佐々木元会長，日本歯科医師会常務理事　西村　誠先生，日本歯科医学会常任理事見明　清先生　の10名であります。諸業務の連絡には，黒田副会長があたっております。

21世紀の幕開けにふさわしい，国際的視野にたった学会とするべく今から周到な計画を練り，世界各国の手を携えての歯科医学の発展に寄与しうる意義深い学会にしたいものと考えております。

会員の皆様の絶大なご支援なくしては，到底，成功させる事は困難であります。どうか宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

開催期間をはじめIADR本部の意向に左右される部分が多く，未確定事項を逐次はっきりさせ，機会をとらえご報告致したいと思います。いずれ準備委員会は，組織委員会ならびに実行委員会へと拡大されていくことになると思いますが，世界の歯科医学のopinion leaderの仲間入りをしているJADRの名に恥じない立派な学会を開催することをスローガンにこれからの準備を続けていく所存です。

夢と希望のなかに1996年の会員各位のご発展を祈っております。

## Ⅹ. JADR総会および理事会報告

1995年度総会は6月30日SingaporeでのIADR総会時に開催され，理事会は第2回（5月22日），第3回（7月31日），第4回（10月2日）と第5回（12月4日）が開催された。総会と4回の理事会での主だった報告，協議事項を以下まとめて報告する（別途項を起こしている件についてはここでは割愛した）。

1. 1995年度会計の決算と1996年度予算について，1995年度総会（6月30日）で会計の中間報告をし，決算は12月4日，監事（谷嘉明教授－京都大学，太田義邦名誉教授－大阪歯科大学）の承認後，予算は第5回の理事会（12月4日）で承認後，Newsletter紙上にて会員の了承を得るという変則的な形式がSingaporeでのJADR総会で承認された（決算と予算は次頁以下に掲載）。
2. JADR元会長佐々木哲先生が名誉会員に理事会で推挙され，Singaporeでの総会で承認，佐々木先生に記念のプラークが贈呈された。
3. 42回JADR総会をお世話いただいた作田　守教授にも感謝のプラークが贈呈された。
4. IADR本部の新しい建物を購入するための費用の募金（Headquarters fund campaign）として，1995年3月31日までの募金総額1,091,000円（589件）をSingaporeのIADR評議会の席上，前会長作田　守教授よりIADR会長Sessle博士に手渡された（IADReport 17巻4号に写真と募金者氏名が掲載されている）。
5. IADR総会が東京で2001年に開催されることがSingaporeでのIADR評議会でも再確認された。なお，準備委員会を設置することとなり，JADRから会長，副会長，事務局長，東京在住の理事（齋藤，奥田，須田の先生方），また会長の依頼により日本歯科医学会より見明　清先生，日本歯科医師会から西村　誠先生が委員に選出され，元会長，前会長を顧問とする準備委員会が発足した。その他の経過については前項を参照されたい。
6. IADR次期Vice-President候補として，作田　守教授，Anders Linde教授（スエーデン），David Ferguson教授（イギリス）がnominateされた。投票は11月1日締め切られ，作田守教授が次期Vice-Presidentに決定した（Ⅲ項参照）。JADRからVice-Presidentが誕生したことは作田守教授の御業績はもちろんのことJADRの活動も高く評価されたものと思われる。会員の皆様方の御尽力に感謝するとともに，作田　守教授の今後の御活躍を期待し，御支援，御協力申し上げたい。
7. IADR正会員の年会費が1996年より5ドル値上げされ，40ドルとなった。学術雑誌（J. Dent. Res.）の購読費を含めると90ドルになる。これにともないIADR入会申込書の

様式が変更された。なお，IADRに入会する場合，海外在住者で海外の部会員でない場合はJADRの会員であることが必要となっている。

8. JADRの会員名簿（1994年10月末日現在）が前事務局長の下で完成し全会員に発送された。

シンガポールでのJADR総会で挨拶されるIADR事務局長Clarkson博士
（IADR会長Sessle会長も同席された） 埴岡 隆先生（阪大・歯・予防）撮影

## 国際歯科研究学会日本部会1995年度決算（1994.11. 1～ 1995.10.31）

### 一般会計

【収 入】

| | 1995年度予算 | 1995年度決算 | 執行率 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| 年 会 費 | 6,382,000 | 8,605,000 | 134.83% | |
| 正会員 | 5,602,000 | 7,895,000 | 140.93% | 95年度分1,190名¥5,950,000 94年度分277名¥1,386,000 93年度まで112名¥559,000 |
| 賛助会員 | 780,000 | 710,000 | 91.03% | 9社 |
| 日本歯科医学会補助金 | 800,000 | 800,000 | 100.00% | |
| 預金利子（銀行・郵便局） | 10,000 | 18,795 | 187.95% | |
| 小 計 | 7,192,000 | 9,423,795 | 131.03% | |
| 前期繰越金 | 3,463,344 | 3,463,344 | 100.00% | |
| 合 計 | 10,655,344 | 12,887,139 | 120.95% | |
| 会費納入会員数（延人数） | 1,117人 | 1,579人 | | |

【支 出】

| | 1995年度予算 | 1995年度決算 | 執行率 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|
| 通 信 費 | 410,000 | 283,680 | 69.19% | 会費請求20万、事務通信費8.3万 |
| 印 刷 費 | 220,000 | 104,442 | 47.47% | Newsletter 1回 |
| 会 合 費 | 200,000 | 214,117 | 107.06% | 12/8理事懇親会費15万、理事会4回 |
| 交 通 費 | 953,000 | 820,140 | 86.06% | 理事会役員旅費4回、事務局員交通費 |
| 文房具費（事務費） | 80,000 | 155,840 | 194.80% | ラベル購入費1.8万、部会印2.3万、コピー代金11.3万（注1） |
| プラーク作製費 | 157,000 | 156,560 | 99.72% | 12/6分 |
| JADR大会補助金 | 1,000,000 | 0 | 0.00% | |
| IADR理事会旅費 | 772,000 | 770,600 | 99.82% | 3名分（シンガポール） |
| 特別講演謝金 | 100,000 | 100,000 | 100.00% | 12/6分 |
| 国際交流費 | 71,000 | 71,000 | 100.00% | 12/6分 |
| 記念大会準備金 | 2,000,000 | 2,000,000 | 100.00% | |
| 名簿作製積立金 | 300,000 | 300,000 | 100.00% | |
| 雑 費（予備費） | 650,000 | 697,197 | 107.26% | 次期会長選挙費31.2万、レターヘッド・封筒印刷費23.5万、諸案内印刷費8.2万 |
| 事務委託費 | 1,749,000 | 2,175,396 | 124.38% | 初期移行費52.8万、会員122.2万、会計12万、庶務22.5万、その他1.6万（注2） |
| 小 計 | 8,662,000 | 7,848,972 | 90.61% | |
| 次期繰越金 | 1,993,344 | 5,038,167 | 252.75% | （注3） |
| 合 計 | 10,655,344 | 12,887,139 | 120.95% | |

（注1）1995年度より日本学会事務センター（大阪事務所；学会センター関西）へ委託したことにより通信費、文具費等に予算との違いが出た
（注2）事務委託費に関しては会員数1,300人分として予算をたてたが、実際には1,689人分であったため執行率が増加した
（注3）繰越金が増えた主な理由としては下記などに因る
i）1995年度は日本国内で総会が開かれなかった為、大会補助金を使わなかったこと
ii）過年度分の会費納入が予測した以上に増えたこと
iii）ニュースレターを1回しか発行しなかったこと

## 特別会計

『IADR本部基金』

【収　入】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 寄　付　金 | 302,000 | 141件 |
| 雑　収　入 | 412 | |
| 小　　計 | 302,412 | |
| 前期繰越金 | 1,102,000 | |
| 合　　計 | 1,404,412 | |

【支　出】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 寄付金送金 | 1,190,000 | |
| 小　　計 | 1,190,000 | |
| 次期繰越金 | 214,412 | |
| 合　　計 | 1,404,412 | |

『名簿作製積立金』

【収　入】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 一般会計より繰入金 | 300,000 | |
| 受取利息 | 0 | |
| 小　　計 | 300,000 | |
| 前期繰越金 | 0 | |
| 合　　計 | 300,000 | |

【支　出】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 名簿発行費 | 150,709 | 1994年度作成分補助 |
| 雑　　費 | 0 | |
| 小　　計 | 150,709 | |
| 次期繰越金 | 149,291 | |
| 合　　計 | 300,000 | |

◎1994年度JADR名簿発行費収支について

i）名簿発行は4年毎とされ、毎年30万円積み立てられ、1994年度分発行費は繰越金等も入れ総額1,999,974円であったが、実際発行に要した支出総額は印刷費の高騰等により2,150,683円かかった。

ii）不足分150,709円は1995年度分積立金より補助した。

iii）次回名簿発行（1998年度）のための積立金額は1996年度予算より増額した。

『2001年準備金』

【収　入】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 一般会計より繰入金 | 2,000,000 | |
| 受取利息 | 0 | |
| 小　　計 | 2,000,000 | |
| 前期繰越金 | 10,000,000 | |
| 合　　計 | 12,000,000 | |

【支　出】

| | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 名簿発行費 | 0 | |
| 雑　　費 | 0 | |
| 小　　計 | 0 | |
| 次期繰越金 | 12,000,000 | |
| 合　　計 | 12,000,000 | |

## 財産目録（単位：円）

（資産の部）

| | | |
|---|---|---|
| 預け金 | 日本学会事務センター運用資金 | 2,171,658 |
| | 小口現金 | 87,100 |
| | 普通預金　三和銀行千里中央支店 | 2,800,648 |
| | 前 払 金　1996年度分楯作成費 | 88,580 |
| | 資　産　合　計 | 5,147,986 |

（負債の部）

| | | |
|---|---|---|
| | 未 払 金　第4回理事会会議費 | 17,819 |
| | 前受会費　1996年度以降会費前受分 | 92,000 |
| | 負　債　合　計 | 109,819 |

◎以上1995年度会計について1995年12月4日に別紙の通り監査を行った。

会計監査報告書

国際歯科研究学会日本部会(JADR)の1995年度会計各項について監査を行った結果、その正確かつ適正なることを認めます。

1995年12月4日

監事 太田義邦

1995年12月4日

監事 谷嘉明

国際歯科研究学会日本部会1996年度予算（1995.11. 1～1996.10.31）

一般会計

【収　入】

| | 1996年度予算 | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 年　会　費 | 8,190,000 | 8,605,000 | |
| 正 会 員 | 7,460,000 | 7,895,000 | 会員数1,650名×80%+1995年度会費431名×40% |
| 賛助会員 | 730,000 | 710,000 | 12社のうち10社 |
| 日本歯科医学会補助金 | 800,000 | 800,000 | |
| 雑　収　入 | 0 | 18,795 | |
| 小　　計 | 8,990,000 | 9,423,795 | |
| 前期繰越金 | 5,038,167 | 3,463,344 | |
| 合　　計 | 14,028,167 | 12,887,139 | |
| 会費納入会員数（延人数） | 1,492人 | 1,579人 | |

【支　出】

| | 1996年度予算 | 1995年度決算 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 通　信　費 | 370,000 | 283,680 | 会費請求（2回）¥230,000、経常経費@12,000×12ヶ月=¥144,000 |
| Newsletter印刷費 | 300,000 | 104,442 | @150,000×2回 |
| 会　合　費 | 90,000 | 214,117 | @ 18,000×5回 |
| 交　通　費 | 1,160,000 | 820,140 | 理事会出席者14名分@230,000×5回、監査2名分¥10,000 |
| 事　務　費 | 270,000 | 155,840 | コピー代金@10,000×12ヶ月=¥120,000 封筒印刷　¥150,000 |
| プラーク作製費 | 90,000 | 156,560 | シンガポール大会分 |
| JADR大会補助金 | 1,000,000 | 0 | |
| IADR理事会旅費 | 1,150,000 | 770,600 | 会長，副会長，事務局長3名分のサンフランシスコ大会への派遣交通費 |
| 特別講演謝金 | 0 | 100,000 | |
| 国際交流費 | 0 | 71,000 | |
| 記念大会準備金 | 2,000,000 | 2,000,000 | |
| 名簿作成積立金 | 850,000 | 300,000 | 見積り ¥2,700,000　@850,000×3年 |
| 雑　　費（予備費） | 240,000 | 697,197 | 諸案内印刷費 ¥100,000 |
| 事務委託費 | 1,700,000 | 2,175,396 | 会員 ¥1,350,000 会計 ¥120,000 庶務 ¥225,000 |
| 小　　計 | 9,220,000 | 7,848,972 | |
| 次期繰越金 | 4,808,167 | 5,038,167 | |
| 合　　計 | 14,028,167 | 12,887,139 | |

## XI. JADR次期会長に黒田敬之教授（東京医科歯科大学）が選出される

次期会長の選出方法について5月22日の理事会で諮られ，前例に従い理事会で次期会長候補者を選出，全会員に候補者のbiosketchと投票用紙を配布した。開票作業は作田守，伊集院両理事と岡田事務局長が選挙管理委員として行い，黒田教授が次期会長に選出された。なお，投票率は46.6%であった。

## XII. Hatton賞（IADR学会賞の項参照）候補者の選考について

本賞は第10代IADR会長のEdward Hatton博士の功績をたたえて設けられた若手研究者を顕彰するための賞でプレドクトラル部門（学部学生または卒後1年未満の方），ポストドクトラル部門（Dental licenceまたはDegreeを保有，1年以上の研究歴を有し，応募時36才未満の方－目下，この年令制限にAADRより反対意見が出されている）がある。JADRの意見も聴取されており，我が国の科学研究費補助金にも35才未満者を対象とする奨励研究制度があることから，Hatton賞の現行制度に賛意を示している。

日本から推薦できる候補者は4名（1996年度より従来より1

名増－これは各Divisionの会員数に応じて割り当てられている。ちなみにAADRは10名で，スカンジナビア・イギリスは各3名である）で，JADRの全理事が審査委員となり候補者を選考している。1997年度の応募は昨年同様に行う予定で，応募希望者はJADRのAbstract Formに研究目的と研究内容，結果等を記入（英文）し，IADR Hatton Award Biosketch書式〔用紙の請求は学会センター関西へ）に必要事項を記入し，事務局（学会センター関西）へ7月31日必着で応募して下さい。審査の結果，選出された候補者はIADR総会で審査を受け，各Divisionの多数の候補者より2名が順位付けで受賞者に選ばれます。また，JADRからの4名の候補者にはTravel Award（ちなみに1996年度は総額1950ドルです）が授与されます。ふるって応募下さい。Hatton賞の応募についての詳細は各大学のJADRのお世話をしていただいております先生方（御名簿を別途記載しておきます）にお尋ね下さい。

ちなみに1996年度Hatton賞応募者は全国歯科大学および歯学部に応募案内をした結果，6名の方が応募され，以下の4名の先生が候補者に選出された。

網塚　憲生（新潟大学歯学部口腔解剖学第1講座）
王　　宝禮（北海道大学歯学部予防歯科学講座）
須田　直人（東京医科歯科大学歯学部歯科矯正学講座）
平野　裕之（大阪大学歯学部口腔治療学講座）

## XIII. ハットン賞選考に参加して

山田　　正（東北大・歯・生化）

ハットン賞選考委員への推挙を受け，シンガポールでの総会の際に初めてその選考の過程に関与する機会を得ました。その選考過程の実状は，外から想像していたものとかなり違いましたので，皆様にその実状のいくらかをお知らせし，ハットン賞に応募される方々の参考にできれば幸いと思います。

まず，日本人は英語が下手なので，受賞が難しいのではないかということは，かなりの誤解であることがわかりました。今回，最終選考に参加された3人の方々は，少なくとも必要最小限の語学力は持っておりました。むしろ，その他のアジアの国の方々に意見交換が困難な応募者がおりました。しかし，審査員のあいだでは，質疑の内容の理解は困難ではあるが，その研究内容が良いのでこれを高く評価すべきであるとの意見が大勢を占めておりました。質疑応答に対する採点が，評定の半分を占めますから，質問に十分答えられないのは有利ではないのは事実ですが，流暢に答えるよりは，言葉に多少不便であっても，科学的にしっかりした討論をすることが重要です。日本人研究者は，言葉の問題よりもむしろ科学的に討論することに慣れていないと感じました。日本語でも，日常的に理論的・科学的な討論をする訓練をしておくことが大切だと思います。研究室内でのセミナーや日本国内の学会での質疑応答をしっかり行い，討論に慣れておくことが重要ではないでしょうか。

最近の分子生物学の流行で，ことに米国では多くの研究者がこの分野の仕事に手を染めています。就職のためには，分子生物学の手法を身につけていることが大変有利である状況もこのことに拍車をかけているようです。ハットン賞の受賞にも，分子生物学関係の研究が多く，分子生物学でないと受賞が難しいのではないかとの風評があります。しかし，ハットン賞選考委員の間では，この状況に対する批判があります。分子生物学としては立派な仕事であっても，歯科医学にどのくらいの貢献があるかをより重視しようとの意見が大勢を占めています。それゆえ，質疑応答に際し，その研究の結果が，歯科医学に対しどのような意義をもつかと問いが多くなされました。また，その研究が将来どのように展開してゆくか，その見通しについての質問も多かったはずです。

分子生物学などの研究では，研究室が巨大化し，ハットン賞候補者が，大きな研究グループの歯車の一員にすぎないのではないかとの懸念もされておりました。共著者が多い研究に対しては，候補者が研究のどの部分を担当したかとの質問が多くされたのは，このような理由からです。候補となった若手研究者がどのように積極的にその研究計画に参画していたかが重要なポイントになります。

ともあれ，ハットン賞受賞の研究が，科学的にしっかりしたものであることが重要であることはもちろんですが，それとともに歯科医学，歯科の臨床に対する貢献が重視されることを認識していただき，自信を持って多くの方々が応募をしていただきたいと思います。日本の研究者と欧米の研究者に差を感じたとすれば，それは英語を流暢に操ることではなく，その討論を科学的に，冷静に，論理的に行うかということでした。研究内容等では，決してひけをとるものではなく，日本人候補者が「いい線を行っていた」ということをお知らせしたいと思います。

来年は，3分の1の審査員が交代しますので，選考方針に多少のシフトはあるかもしれませんが，栄誉あるハットン賞に応募される皆さんの参考になれば幸いです。

## XIV. JADRの会員数（1995年10月末日現在）について

正会員－1595名，名誉会員－７名，終身会員－18名，賛助会員－12名

## XV. 長期会費滞納者（1995年10月末日現在）の取り扱いについて

５年滞納者－27名，４年滞納者－９名，３年滞納者－100名，2年滞納者－97名

このなかには現在でも引き続きIADRの会員である方がおられますので，IADR会員は必ずLocal Divisionに所属しなければなりませんので，JADRの会費納入をお忘れなくお願いします。なお，IADRは１年間会費が未納となりますと自動的に会員でなくなりますので御注意下さい。なお，JADRにも２年間以上の滞納は退会と規定されています（1995年よりJADRの事務局が新設され，また後述するような理由もあって現在JADRの会則が再検討されている。そこで長期滞納者にも再度情報を提供し，もしお忘れのようであれば会費納入を催促することにした)。

## XVI. JADR会則の検討について

日本学術会議登録学術研究団体として，JADRを申請するかどうか検討する機会もあり（申請は今回見送った)，また学会の事務局も「学会センター関西」内に設けられたこともあって会則を再検討する運びとなった。将来，JADRが歯科領域の学術研究の発展に尽くす方々の協調する開かれた学会であるよう，出来るところから手をつけて行こうとの考えが基盤であります。そこで現行の組織の拡大も俎上にのぼっております。1996年第44回総会で改正案が上程できるよう努力したいものです。

## XVII. IADR各種委員（1995－1996）に占めるJADR会員

IADR Vice-Presidentに作田守教授が選出されたことは我々の大きな喜びであり，誇りでもある。各種委員会におけるJADR会員委員もVice-Presidentを盛り上げ一層の努力が必要であろう。

Edward H. Hatton Award Committee（山田　正教授）
FDI Liaison Committee（中田　稔　教授）
IADR / AADR Joint Exhibitions Committee（丸山　剛　教授）
Membership and Recruitment（中村　亮　教授）
Nominating Committee（Chair - 岡田　宏教授）
（IADReport 17巻３号より）

この他，欠員となっている委員会にJADR会長よりJADR会員を推薦されているので，今後JADR会員の委員が増加するものと期待される。また，Research Groupの会長（Material Science）として谷　嘉明教授が活躍されている。

## XVIII. JADR歯科大学連絡委員

全国歯科大学，歯学部におけるJADR（IADR）のお世話をいただいている先生方は以下の方々です。JADRはIADRのLocal Divisionの一つですので，IADR本部の事業に深く関わっておりますので，IADReport以外にも多くの情報がJADRにもたらされます。そのなかにはJADR会員の総ての先生方というより大学研究機関に御通知しておいた方がよい案件が多くございます。そんなこともあり次頁の先生方には大変お世話になり紙上を借りまして厚くお礼申し上げます。

## JADR 歯科大学連絡委員一覧（敬称略）

| 大学名 | 連絡委員所属学科 | 連絡委員氏名 | 大学名 | 連絡委員所属学科 | 連絡委員氏名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 北海道医療大学 | 歯学部歯科理工学講座 | 大野　弘機 | 日本歯科大学新潟歯学部 | 歯科理工学講座 | 小倉　英夫 |
| 北海道大学 | 歯学部口腔生化学講座 | 久保木芳徳 | 松本歯科大学 | 口腔生化学講座 | 原田　實 |
| 岩手医科大学 | 歯学部歯科保存学第一講座 | 久保田　稔 | 朝日大学 | 歯学部歯科理工学講座 | 森脇　豊 |
| 東北大学 | 歯学部口腔生化学講座 | 山田　正 | 愛知学院大学 | 歯学部病理学 | 亀山洋一郎 |
| 奥羽大学 | 歯学部矯正学講座 | 梅村　幸生 | 大阪歯科大学 | 歯科補綴学第二講座 | 川添　堯彬 |
| 明海大学 | 歯学部口腔生理学講座 | 上羽　隆夫 | 大阪大学 | 歯学部歯科補綴学第一講座 | 丸山　剛郎 |
| 日本大学松戸歯学部 | 生化学講座 | 安孫子宜光 | 岡山大学 | 歯学部歯科保存学第二講座 | 村山　洋二 |
| 東京医科歯科大学 | 歯学部歯科矯正学第二講座 | 黒田　敬之 | 広島大学 | 歯学部歯科補綴学第二講座 | 濱田　泰三 |
| 東京歯科大学 | 微生物学講座 | 奥田　克爾 | 徳島大学 | 歯学部予防歯科学講座 | 中村　亮 |
| 日本歯科大学 | 薬理学講座 | 筒井　健機 | 九州歯科大学 | 歯科理工学講座 | 小園　凱夫 |
| 日本大学 | 歯学部歯科保存学第二講座 | 斎藤　毅 | 九州大学 | 歯学部小児歯科学講座 | 中田　稔 |
| 昭和大学 | 歯学部歯科薬理学 | 山田　庄司 | 福岡歯科大学 | 口腔生化学講座 | 阿部　公生 |
| 神奈川歯科大学 | 口腔細菌学教室 | 梅本　俊夫 | 長崎大学 | 歯学部歯科薬理学講座 | 加藤　有三 |
| 鶴見大学 | 歯学部歯科薬理学講座 | 千葉　元承 | 鹿児島大学 | 歯学部歯科保存学第二講座 | 末田　武 |
| 新潟大学 | 歯学部歯科保存学第一講座 | 岩久　正明 | | | |

## XIX. 第44回 JADR 総会について

日　時：1996年11月26日，27日
場　所：福島県裏磐梯檜原湖畔『裏磐梯猫魔ホテル』
担当校：東北大学歯学部口腔生化学講座
大会長：山田　正　教授
連絡先：仙台市青葉区星陵町４－１
東北大学歯学部口腔生化学講座
TEL. 022-273-9344　FAX. 022-263-9867

上記総会は，1996年11月26日（火），27日（水）の両日にわたり，福島県裏磐梯檜原湖畔の裏磐梯猫魔ホテルを会場として行われます。保存学会との重複を避け，前回のご連絡より一週間後の日程に変更しました。この地は，磐梯山の火口とその噴火によってつくられた檜原湖を借景とした素晴らしい景勝の地です。交通は，東北新幹線郡山駅，福島空港から離れたやや不便なところですが，それゆえ，会員が夜も昼も顔を合わせることとなり，研究と友情の交流を深めるためには，絶好の環境ではないかと考えております。このことを考え，大会のテーマを「研究と友情の交流」としました。宿泊費などのかなりのサービスをホテルにはお願いしてありますが，超一流ホテルゆえ，高いと感じられる方のためには，近くのペンションをも手配しております。

大会の特別講演には，相互交流の韓国からの代表とともに，スイス・チューリッヒ大学のグッゲンハイム教授に交渉中であり，実現すれば，ウ蝕・歯周病の微生物・免疫学で世界の大御所の講演に接し，意見交換をすることができます。また，シンポジウムとしては，歯科全体の重要問題である「食品の齲蝕誘発性評価」の問題を取り上げる予定です。その他にも，より臨床に密接したシンポジウムがもてるかどうか検討しております。また，モーニング，イブニングの教育講演や，企業の提供によるテクニカルセミナーやランチョンセミナーなどが可能かどうか，これは相手もあることであり，種々交渉中です。

会場のホテルには，檜原湖畔を望める素晴らしい大浴場の温泉があり，大会参加者には無料で解放される予定です。講演での疲れを癒し，まさに裸の交流が生まれるのではないかと期待しております。エメラルド色の湖沼群である五色沼の観光も散歩のついでにできますし，野口英世の生家にある記念館や白虎隊の会津若松城へのエクスカーションも計画しております。ラーメンで知られる喜多方市も近く，ここには酒蔵が多く，お酒の試飲とラーメンというユニークな組み合わせの楽しみも計画しております。ご家族共々参加され，学問と観光のコンビネーションを楽しまれることを期待しております。学問上の交流が家族を含めてのより深い交流に発展することもあるでしょう。

ともあれ，出会い，再会の交流がはぐくまれる学会として，楽しい討論の場として多くの方のご参加をお待ちしております。

（大会長：山田　正）

# CONTENTS

Ⅰ. JADR会長 年頭の挨拶
1

Ⅱ. IADR会長（Richard Ranney博士）挨拶
1

Ⅲ. 作田　守先生，IADRのVice-President選挙，当選おめでとうございます
2

Ⅳ. IADR/AADR本部ビル公式オープニング記念行事に出席して
2

Ⅴ. IADR部会長会議および評議会の要約
3

Ⅵ. IADR学会賞について
5

Ⅶ. 1995年IADR Research Groupの活動報告
5

Ⅷ. IADR Building Fundついて
8

Ⅸ. 2001年IADR総会準備状況
9

Ⅹ. JADR総会および理事会報告
9

XI. JADR次期会長に黒田敬之教授（東京医科歯科大学）が選出される
12

XII. Hatton賞（IADR学会賞の項参照）候補者の選考について
12

XIII. ハットン賞選考に参加して
13

XIV. JADRの会員数（1995年10月末日現在）について
14

XV. 長期会費滞納者（1995年10月末日現在）の取り扱いについて
14

XVI. JADR会則の検討について
14

XVII. IADR各種委員（1995−1996）に占めるJADR会員
14

XVIII. JADR歯科大学連絡委員
14

XIX. 第44回JADR総会について
15

**●編集後記●**

年2回Newsletterを発行しなくてはと思いつつ，お約束を果たせず大変申し訳なく思っています。

昨年は阪神淡路大震災，地下鉄サリン事件等世相騒然とした暗い一年でした。しかし新年早々，大変嬉しいニュースが飛び込んでまいりました。作田守前JADR会長が次期IADR Vice-Presidentに選出され，サンフランシスコの総会以降から活動が開始されます。これはJADRにとっての快挙であり，若い会員の皆様方の将来の国際学術活動にも大きな励みになるものと期待しております。先生の国際舞台での御活躍を祈念しますとともに，JADRも益々国際的評価が得られるよう真の学術団体として飛躍してゆかねばならないと身の引き締まる思いです。会員の皆様の御支援と御協力を切にお願いする次第です。最後に，次号から会員の皆様方のひろばを設けようと考えています。何かよいお考えがあればどしどしご意見をお寄せ頂ければ幸甚です。（岡田　宏）

発　行　国際歯科研究学会日本部会（JADR）
連絡先：〒565 豊中市新千里東町1－4－2 千里ライフサイエンスセンタービル14階　学会センター関西 内
FAX 06−873−2300　担当：大戸　道子
JADR事務局長　岡田　宏（大阪大学歯学部口腔治療学講座）
連絡先：〒565　吹田市山田丘1－8　FAX　06−875−4359
1996年1月20日 発行